

医療安全トピックス TOPICS

Vol.96

慶越 真由美

日本看護協会看護開発部看護業務・医療安全課

コネクタの形状が変わります！ ～誤接続防止コネクタの導入について～

新コネクタが変わります。現場は何をする？

医薬品や医療機器の開発スピードは速く、患者の治療上に、より優れた効果を発揮するものや、現場の安全性を考慮した製品などさまざまな「モノ」が現場に導入されています。しかし、導入にあたり現場では、これまでの手技や業務工程では対応できないということで医療安全上の問題が生じることがあります。新しいモノの導入にあたっては、まずは現場のすべての人が、新しいモノが導入されること、なんのために導入されるかを理解し、導入にあたって医療安全上予測されることを現場で使う人の視点で検討する必要があります。

2017年10月に厚生労働省より、通知として「相互接続防止コネクタに係る国際規格 (ISO (IEC) 80369 シリーズ) の導入について」が発出されています。これはこれまで、硬膜外カテーテルに静脈用の点滴を接続してしまうなど、製品分野間の誤接続に起因する重大事故が発生していたため、モノ自体の形状を変更し、物理的に誤接続できないようにする「誤接続防止コネクタ」が導入されることになったことを通知するものです。

安全性を考慮した製品が導入されることにより、誤接続の防止が可能となることが考えられますが、導入過程で、新旧製品の誤使用などさまざまな医療安全上のリスクも予測されます。

そのため新しいモノを導入する際は、現場の1人ひとりの看護職が何をしなければならないかを考えていきます。

●誤接続防止コネクタの導入について

(図表1、図表2)

厚生労働省より異なる製品分野間 (経腸栄養、皮下注射及び血管系等、神経麻酔、呼吸器システム及び気体移送、泌尿器、四肢のカフ拡張) の相互接続による医療事故を防止することを目的とした口径や形状が既存のものとは異なる誤接続防止コネクタの導入に関する通知が発出されました。

すでに、2018年の秋から神経麻酔分野の切り替えが始まっており、その他の分野も順次切り替えが行われます。

●すべての看護職が知っておくこと、

やらなければならないこと

新規格製品と旧規格製品では、コネクタの口径や形状が異なるため、相互に接続することができません。切り替えの際に、新規格製品と旧規格製品が混在すると、新旧コネクタ間で非嵌合が生じ、医療安全上の問題が生じることが考えられます。例えば、つながらないことにより、必要な処置が行えなくなることや、つながらない状況をなんとかしようとし、